

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(伊佐見小)学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・保護者の考えも取り入れつつ、子供たちのことを第一に考えた意見交換を行い、熟議を進めていくとともに、委員同士の信頼関係を深めていく。
- ・CSボランティアの活動を「子供たちの成長のために必要な活動と捉え、さらに人材確保を進めるとともに、活動内容も広げていく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

伊佐見小学校の目指す子供像である「ちがいを ちからにかえる伊佐見の子」を育てることで、学校教育目標「こころざしをもち 高め合う」に向かって頑張る教師の姿を知るとともに各自が地域でどのような子供を育てたいのか熟議することができた。熟議にあたっては、学校・保護者どちらかに偏ることのない距離感で、子供たちのことを第一に考えた意見交換ができていたと思われる。さらに、グループに分かれるなど話し合いの形態を変えながら、どの委員も気軽に意見を言うことのできる工夫をしていきたい。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

授業参観の折には、各学級の子供たちや先生方が頑張っている姿を紙に書いて渡し子供たちが確実に成長している姿を伝えたり、その後の意見交換の場で子供たちや先生方の様子について学校側と忌憚なく話し合ったりすることができた。学校支援活動については、各委員が、それぞれの立場や経験から多くの意見を出し合い、それをコーディネーターが橋渡しとなり、活動につなげることができた。特に、学校行事での保護者ボランティアの活動を大きく前進させることができたと思われる。今後は、どのような支援活動を必要としているのか、学年別のリストなどを提示してもらい、さらに具体的に討議を進めていきたい。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

協議内容や結果について「CSだより」にて情報発信を行った。「CSだより」は保護者には紙で配布し、地域には回覧板に載せて全戸に配布している。今後、保護者への配布は、さくら連絡網の活用を考えていきたい。

また、自治会・PTA・シニアクラブなどの会議で必要な項目について説明している委員もいる。今後、委員全員が意識し地域に協議結果について周知していきたい。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- ・保護者と学校の教育活動についての情報を共有しながら、子供たちのことを第一に考えた意見交換を行い、熟議を進めていくとともに、委員同士の信頼関係を深めていく。
- ・本年度に引き続き、CSボランティアの活動を「子供たちの成長のために必要な活動」と捉え、さらに人材確保を進めるとともに、活動内容も広げていく。